

14.21 - 18



+1200700353124+

秋田縣勸業報文

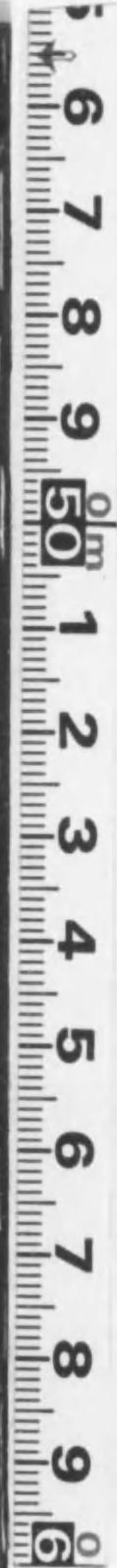
明治二十八年九月分



秋田縣

第三拾八號

(禁發賣)



始





凡例

- 一本報ハ勸業ニ關スル法令及有益ノ事項ヲ採録ス
- 一本報ハ事項ヲ分チ法令、農作、蠶業、畜産、水産、山林、鑛業、工業、商業、博覽會記事、雜事ノ十一部トス 但シ每號必ス之ヲ列擧スルニ非ス其事ナキモノハ隨時之ヲ省ク
- 一勸業ニ關スル記事論說ヲ寄稿スルモノアルトキハ之ヲ登錄ス
- 一勸業上ノ利害ニ就キ質問スルモノアルトキハ之ニ應シ又ハ實業者ニ意見ヲ諮ヒ之ヲ本報ニ登載スヘシ
- 一本報ハ毎月一回之ヲ刊行ス

内務部第五課

秋田縣勸業報文第三拾八號

目次

法令	秋田縣令第五十五號	一頁
農作	稻莖の繁茂と除草との關係	同
	揚水器設備景況	二頁
	農事試験場試験成績	三頁
蠶業	本年蠶業概況	三十四頁
畜産	秋田市畜畜検査景況	三十七頁
雜事	奥羽六縣實業大會景況	同
	二十八年九月中秋田氣象	四十三頁



秋田縣勸業報文第三拾八號

秋田縣勸業報文第三拾八號

◎法令

○秋田縣令第五十五號

明治二十二年十二月三日秋田縣令第一百十七號捕魚採藻取締規則第十九條の七項を左の通改む

七 八龍湖に於て漏斗間手網跳込網機械網(一名箱網)并以上の網に類似の網を以て漁業を爲す事

明治二十八年九月五日 秋田縣知事 平山 靖 彦 六本

◎農作

○稻莖の繁茂と除草との關係 農商務省農事試驗場本場に於て試験したる稻莖の繁茂と除草との關係左の如し

氣候陰冷にして地温低く從て稻の生育株張不十分なる時に於ては人力を以て氣候を左右すること能はさるか故殆ど之に處するの途なきか如しと雖ども灌水を淺くし且つ除草の回數を増し以て空氣の透徹を助くるときは其生育上裨益することなしとせず依て本場に於ては特に除草の効驗如何を知らんか爲め除草試験を行ひ左の區別をなし八月十七日に至りて一株の莖數



を檢せしに左の成績を得たり但し一株の莖数は五株を平均したるものなり

番一號 試驗の區別

第一 本場普通法

第二 一番除草の蟹爪のみを廢す

第三 三番除草に止む

第四 二番除草に止む

(備考) 本場普通法とは一番除草に蟹爪を用ひ尋て蟹爪直しをなし夫より二番三番四番

まで除草を行ひたるものとす又本試験に供せしは中稻近江種にして一株六本、

一歩四十五株を植えたり

○揚水器設備景況 佐賀縣東松浦郡久里村大字久里は松浦川の東岸に沿ふ村落にして其田面百三十餘町歩の作水は東北隅なる一箇の池水を引用し來りしに去る二十四年七月水害に罹り田面凡そ四十餘町歩砂礫を破り荒廢に属し爾來漸く復舊せしも地盤鬆粗となり一旦灌溉するも忽ち漏理し従前一週日を保ちし水量は僅に一日にして涸渴するを以て俄に多量の用水を要し池水欠乏し年毎に非常の旱害を被り一局部のため其害全局に波及し到底一池の水量を以て全局の田

面に供給し難きを慮り同地長谷川敬一郎なるもの大に奮慨し私費を抛ち十馬力の蒸機を三十咫の「ヒューゲル」唧筒を設備し被害地なる四十餘町歩に對し用水を供給せり尤も同器械の揚水量は一晝夜三萬石位に達し爲に在來の池水も亦餘裕を來し被害地以外の田面も從て用水十分となり其成績良好なり而して右揚水器一式に要せし費用は金千貳百圓にして運轉に要する費用は一日金貳圓五拾錢内外なり今之を元資金に對する年八朱の利子及運轉費等を灌溉田面に割當つれば一反歩(一期の稻作)に付き金壹圓内外なり(官報三六五六號)

○農事試験成績

大麥

(一) 種類試験

試験の目的 本試験は外國種中長種と稱するもの二種を在來種に比較し其品質收量を試みんとするにあり

試験の方法 種子は各區とも鹽水撰せしものにして一反歩三升の割を以て畦幅を二尺五寸とし六寸の株間巨離を以て種子五六粒を點播せり左に種名反別及肥料を掲ぐ



區名	種名	作付反別	肥料
第一區	こるでんめろん種	一畝歩	堆肥 三人 三畝 二荷
第二區	けいぶ種	一畝歩	同上
第三區	在來種	同上	同上

○施肥 九月二十一日

播種 九月二十一日

中耕 二十七年十一月五日 二十八年四月十八日 五月八日

生育の景況 第一區こるでんめろん種 十二月十日之を檢せしに成育株張共善良にして二區三區に比し其草長著しかりしか本區に限り積雪多かりしを以て殆んど三分の一消雪后間なく腐敗せしも早春第二回の中耕以來根節より再び新芽を發し生長せしを以て整一を欠きたりと雖概して深綠色を呈せり  
第二區けいぶ種 十二月十日檢見の際には成育株張共に善良なりと雖第一區こるでんめろん

種に比し其草長稍短小なりき消雪后之を檢するに腐敗せしもの少かりしも葉端少しく黄色を呈せり早春第二回中耕以來大に其發育を増進せり  
第三區在來種 十二月十日には其景況第一區に比し殆んど同一なるも其草長短く淡綠色を呈せり消雪後之を檢するに葉端黄色を呈せしと雖第二區けいぶ種に比し甚しからざりし  
今前各種類に付抽穂の期日及其成熟の日數等を擧ぐれば左の如し

種名	出穂期	抽穂期	收穫期	成熟日數
こるでんめろん種	五月十三日	六月一日	六月二十八日	二百八十一日
けいぶ種	五月十七日	五月二十九日	六月三十日	二百八十三日
在來種	五月十二日	五月二十八日	六月二十五日	二百七十八日
平均日數				二百八十一日

出穂の期日は前記の如しと雖もけいぶ種在來種は抽穂最も整一なりしこるでんめろん種は前



已に述べたる如く莖葉腐敗し根部より更に新芽を生せしを以て其抽穂甚た不同なりき今各區に付一反歩改算收穫高及搗減の歩合等を左に掲ぐ

第一表

種名	收量		一升の重量	芒の重量	莖稈の重量
	貫數	石量			
こるでんめろん種	四二、八二二	一、四〇四	三〇五	七、八〇〇	八八、九二〇
けいぶ種	六一、一三二	二、一四五	二八五	七、八〇〇	七四、二五〇
在來種	六五、八三五	二、三二〇	二八五	一八、一五〇	七四、二五〇

第二表

種名	三斗の殻麥に對する精麥の升量	同上重量	同上碎麥の升量	同上重量
こるでんめろん種	一八〇	七、八五〇	三〇	九〇〇

種名	一四四	四、九五四	二一	七〇九
けいぶ種	一四四	四、九五四	二一	七〇九
在來種	一五〇	四、一六〇	一八	六六六

結論 前表に依れば最高收穫に在來種にして最低收穫こるでんめろん種なり然りと雖同種は精麥の升量に於て最も多くけいぶ種は尤も少し今前三種に付其優劣を記せば食料としてこるでんめろん種其量に於て最も多くけいぶ種之に次ぎ在來種最下位にあり故にこるでんめろん種けいぶ種を栽植すべし頗る利益ありと雖本種は積雪多き年にありては在來種に比し割合に葉腐敗に罹ること多きを以て一般縣内に普及せざるもの、如し然りと雖尙繼續試験し風土に化せしめ健全なるものを生成せしめんことを期す

附言 本場に於ては一昨年より外國種及在來種との雜種を見出し稱して秋田縣けいぶと云ふ本種は六條列にして穂形在來種と同一なりと雖少く長く粒はけいぶ種の如く大にして充實し葉莖殆んどけいぶ種に類し頗る健全なり本種に就き試験結果は他日更に報することハせん

左に参考の爲め各種類に付其特徴を掲ぐ



(一) ころでんめろん種 本種は二條列にして矢羽状をなし種の長さ最小一寸七分最長二寸五分にして芒は長きは四寸五分短きは二寸なり概ね一種に二十四粒乃至三十四粒を付着し稈の長さ凡そ三尺二寸穂頭直立す子粒大にして充實し色澤品質最も善良食料に供し頗る佳なりとす

(二) けいぶ種 本種は六條列にして穂の長さは大一寸五分小は七分許にして芒は長きは五寸七分短きは三寸許あり概ね一種に三十六粒六十六粒を付着し稈の長さ凡そ二尺八寸許穂頭直立し子粒前種に比し少く小さく且つ外皮の一局部に稍々暗黒を帯ひ品質中等食料に供して前種に劣る

(三) 在來種 本種はけいぶ種と同じく六條列なりと雖も穂長く大は二寸五分小は一寸許にして芒の長さは凡そ四寸五分一種に六十粒乃至三十六粒を付着し稈の長さは三尺許にして前二種に比し細く倒れ易し品質下等精麥細長にして鼠色を呈し食料に供し前二種に劣る

(二) 春蒔試験

試験の目的 本縣は概して積雪の多き年にありては大麥の腐敗又は鼠害に罹ること多きを以て其腐敗或は鼠害に罹りたる處へ早春更に播種し其結果を見んとするにあり

試験の方法 試験區を分て三となし各區十歩とし肥料は堆肥二十駄鯨油滓五貫目を一反歩の施肥量とし各區均一に配施せり消雪後直に整地し畦幅を二尺五寸とし條播せり種子は一反歩五升の割合にて其精選したる種子は播種前灰汁に浸漬すること一晝夜にして下種せん其種名左の如し

- 第一區 ころでんめろん種
- 第二區 六角しゆばりゑい種
- 第三區 在來種

生育の景況 各區とも四月一日播種せしか二週日にして各區齊一伸長し五月十九日第一回除草中耕せり當時湿度宜しきを得殆んど五寸以上發育せしか其後晴天打續き加ふるに蚜虫發生し爲に大に其發育を妨害せりと雖之を小麥春蒔試験に比すれば稍善良にして殊に六角しゆばりゑい種の如き其出穂多かりしか其他の二區は所々に出穂散點し結實に至らざりき

種名	收量		藁	一升の重量
	貫數	石數		
ころでんめろん種	一、八七五 <small>匁</small>	七五 <small>合</small>	一、五〇〇 <small>匁</small>	二五〇 <small>匁</small>
六角しゆばりゑい種				



結論 前表に依れば、こゝでんめろん種在來種の皆無なるは主として土壤旱害の爲め龜裂を生せしと、害虫の害に罹りたるに依る而して六角しゆばりゑい種の前記被害ありたるにも、不拘七升五合の收量を得たるは主として早熟種に因るなるべし。本試験は尙繼續し、確報することあるべし。

(三) 春季移植試験

試験の目的 本縣は概して積雪多き年ありては、大麥は腐敗又は鼠害に罹りたることあるを以て、一々年一作をなすに過さる場合不少依りて、苗圃を排水充分にして積雪割合に少く且除鼠に便利なる場所に設け置き、本島にて腐敗或は鼠害に罹りたる處に之を早春更に移植し其結果を試みんとするに在り。

試験の方法 苗床は其反別十五歩にして二十七年九月二十一日を以て整地し、是に人糞二荷を施し畦巾を四尺とし撒播せり。前年麥を播種し腐敗又は鼠害に罹りたる圃場を整地し畦巾を二尺五寸とし一株は本の割合にて六寸を隔てて移植せり。肥料は前年秋季直播の際堆肥十駄を施せしを以て移植の際は何れも無

肥料を以てせり。生育の景況 四月二日移植せしか秋季移植試験のものに比し割合に根付善く四月二十四日中耕の際は一尺以上に生育し色深濃綠色なりしか其株張秋季直播せしもの、如く擴張せず殆んど植付本數と同一なり而して出穂の際莖稈の長さを檢定せしか僅に二尺なりき左に一反歩收量を示さん。

種 名	收 量		一 鉢 の 重 量
	數	石	
けいせきふゆり種	七、四二〇 <small>匁</small>	二八〇 <small>合</small>	二六五 <small>匁</small>

結論 前表に依れば一反歩僅に二斗八升の收量なり之を秋季移植試験の收量に比すれば六斗九升五合秋季直播のものに比し一石八斗六升五合の減收を見る。

(四) 秋季移植試験

試験の目的 本縣は従來秋彼岸に麥の播種を終る習慣あり然るに或地方にありては畦巾の狭小なる爲大豆收穫前麥を播種し能はざる場合不少依りて豫め苗床を作り苗を養成し大豆收穫後之を移植し其收量を試みんとするにあり。



試験の方法 移植區は十一月六日整地し畦巾を二尺五寸一株四本の割合にて六寸を隔て、移植せり肥料は移植前堆肥一反歩二十畝の割合を以て施せり

生育の景況 苗床は播種後齊一に發芽し十一月六日に至り之を檢するに已に八寸以上に伸長せり

移植後根付迄は其外觀甚た惡しく其分蘗をなすに及んで積雪に遭遇し株張充分ならずり翌春消雪后之を檢するに其前年において根の充分擴張せざる分は概ね腐敗し然らざるものは辛ふして其生長を遂げたるもの、如し五月十九日第二回中耕の際之を檢せしか株張甚た少く其蘗數四乃至五本にして其草長三尺五寸従て種の高さに於ても秋季直播のものに比し殆んど半なりき左に一反歩收量を示さん

種名	收量		一反歩の重量
	貫數	石數	
けいぶ種	二七、七八八 <small>匁</small>		九七五 <small>合</small>
			二八五 <small>匁</small>

結論 成績に依れば一反歩收量九斗七升五合にして之を秋季直播せしけいぶ種即ち種類試験

(一)の二區に比較し一石一斗七升の減收なり本試験の結果に依り考察するときは秋季移植は其植付本數を多くし且つ株間の巨離を接近せば其收量を増加するもの、如し

小麥

(一) 種類試験

試験の目的 本試験は内外種中良種を認むるものを選択し外國種は務めて之を本縣の風土に化せしむるの目的にして前年に繼續し試験せんとするにあり

試験の方法 大豆收穫後整地の上畦巾を二尺五寸に作り各區拾五坪とし種子は鹽水撰せしものにして五寸を距て、種子六粒を點播せり肥料及種名は左の如し

一反歩	
堆肥	十五畝
萍	二貫目
第一區 まつちんす、あんばあ種	第二區 すこつち、はいふ種
第三區 しぶれいす、めであひ雜種	第四區 れつど、めでたらにやん種
第五區 うかんたあぐれんまうてん種	第六區 くろをそん種
第七區 たるきい種	第八區 れれごん種



第九區 うるべつぎちやつぶ種

第十區 しるばあ、あちやつぶ種

第十一區 宮城縣第二號種

發育の景況 九月二十一日前記の肥料を不同なく施し播種せしか以後一週日にして發芽せり而して其最も整一なりしは第一區第二區第四區第五區第六區第八區第十一區にして其最不整なりしは第三區第九區の兩區なりき

積雪前即ち十二月十日各區を檢せしか其種類の異なるに従ひ葉の廣狹及草長等多少の差異ありと雖獨り第五區は一尺以上に伸長し葉莖繁茂し一節を出し恰も春期五月頃の麥作の生育に於けるか如し而して同月中旬強霜の爲め葉端稍黄色を呈せり

消雪後即三月二十四日各區の景況を調査せしに左の如し

葉色綠色にして能く積雪に堪へ腐敗せざるもの

第一區 まつちんす、あんばあ種 第三區 しふれいす、めであむ種

第四區 れつと、めでたりにやん種 第六區 くろをそん種

第十區 するば、あちやつぶ種

以上 五種

積雪の爲め葉端黄色又は幾部分腐敗せしもの

第二區 すこつちはいぶ種

第七區 たるきい種

第八區 ふれごん種

第九區 ぐわるべつぎ、ちやつぶ種

第十一區 宮城縣第二號種

以上 四種

積雪の爲め全く腐敗せしもの

第五區 うわんたいぐれいんまうんてん種

以上 壹種

今前各種に付品種、穂揃、收穫の時期及其成熟の日數等を掲ぐれば左の如し

種	名	出穂期	穂揃期	收穫期	成熟日數
	まつちんすあんばあ種	五月二十九日	六月五日	七月八日	三〇六日
	すこつちはいぶ種	五月二十七日	七月二日	七月八日	三〇六



しぶれいすめであむ種	五月二十八日	六月三日	七月八日	三〇六
うおんたあ、ぐれい んまんうんてん種	五月二十八日	六月四日	七月十一日	三〇三
れつど めでたりにやん種	五月二十八日	六月五日	七月八日	三〇六
くろをそん種	五月二十九日	六月四日	七月八日	三〇六
たるきい種	五月二十九日	六月五日	七月十一日	三〇三
れれごん種	五月二十九日	六月二日	七月十一日	三〇三
ちやつふ種 ちやつふ種	五月二十九日	六月五日	七月八日	三〇六
しるばあちやつふ種	五月二十七日	六月二日	七月十日	三〇二
宮城縣第二號種	五月二十七日	六月四日	七月十日	三〇二
平均				三〇四

本試験の收穫量を一反歩に改算すれば左の如し

種名	收量		秤の重量	莖幹の重量
	畝數	石數		
まつちんすあんばあ種	一七、〇九四	四六二	五、八〇〇	三三三、八〇〇
すこつちはいぶ種	一三、六九〇	三七〇	二、八〇〇	二二三、四〇〇
しぶれいす めであむ雜種	二六、六〇〇	七六〇	三、二〇〇	一一二、〇〇〇
うおんたあ ぐれいんまうてん種	二、一〇〇	七〇	八、〇〇〇	五〇、〇〇〇
れつど めでたりにやん種	二四、〇五〇	六五〇	二、五〇〇	七一、〇〇〇
くろをそん種	三〇、二六〇	八五〇	七、七〇〇	一〇四、〇〇〇
たるきい種	二二、一二〇	六三二	五、八四〇	一三二、二〇〇
れれごん種	六、九六八	二〇八	六、一〇〇	四四、〇〇〇



種名	品質	殻粒一升の重量	一升に對する精粉量	同粗粉量	篩量	粉量多少の順序
うるるべつと ちやつぶ種	最上等	三七〇	二三四	五四	七二	一
しるばあちやつぶ種	同上	三七〇	二三四	五四	七二	二
宮城縣第二號種	同上	三七〇	二三四	五四	七二	三
うるるべつと ちやつぶ種	同上	三七〇	二二八	五五	七九	七
しるばあちやつぶ種	同上	三七〇	二二八	五五	七九	三
宮城縣第二號種	同上	三七〇	二二八	五五	七九	十一

前各種壹升に對し製粉し其品質及精粉量等を檢せしか左表の如し

種名	品質	殻粒一升の重量	一升に對する精粉量	同粗粉量	篩量	粉量多少の順序
くろそん種	上等	三五六	二二二	六八	六九	八
たるきい種	同上	三五〇	二一六	五二	七五	六
ねれごん種	中等	三三五	二〇五	五〇	七三	九
うるるべつと ちやつぶ種	上等	三七〇	二二八	五五	八〇	四
しるばあちやつぶ種	下等	三五〇	一九九	五六	八四	十
宮城縣第二號種	上等	三六六	二二五	五五	七九	五

結論 前表に依れば其収量の最高位を占むるものは(くろそん)(しふれいす、めであむ雜種)(れつとめであむにやん)(宮城縣第二號)にして其最低位にあるものは(うるんたあ、ぐれいん、まうんてん)なり而して製粉量の最高位は(まつちんす、あんばあ)(すこつち、はいぶ)の二種にして(うるんたあ、ぐれいん、まこんてん)最低量なり  
左に合種に付性質用途等を詳記すへし



まつちんす、あんばあ種 本種は穂の長三寸許にして芒は穂先に二三分を有し粒は白色にして光澤を有す品質最も優等にして麩及麵麩製造に適す

すこつちはいふ種 前種に比し穂及幹堅硬にして芒は前種と同一なり粒は白色にして光澤あり品質及用途前種に同じ

しぶれいす、めであむ雑種 穂は太く而して短く子粒は赤褐大粒にして光澤あり品質善良なり麩類製造に適す

れつとめてだりにやん種 本種は穂の形状及粒は前種に甚だ類似せるも只色澤稍濃厚なり麩に適す

たるきい種 本種は細小に幹弱し粒は赤褐大粒にして光澤あり品質善良麩及醸造用に適す

たれごん種 本種はすこつちはいふ種に稍々近く芒は短にして穂先に二三分許の小芒を有し

或は稍短く殆んど無芒なり子粒は白色大にして光澤あり品質中等麵麩に適す

くろをそん種 本種は無芒にして穂は褐色を呈するも粒は白色大にして光澤あり製粉に適す

うえるべつと、ちやふ種 本種の特徴は甚だ顯著にして全穂に一種の細密なる毛を蒙り其色赤褐なり恰も天絨(ういるべつと)の如し故に此の名あり粒は中庸にして赤褐色を帯び製粉は

麵麩及麩類に關す

しるばあちやつぶ種 本種は在來種に類似し居るも色澤稍々純白に近く粒は赤褐にして小なり品質、善良ならずと雖其製粉量は在來種に比し多量なり

宮城縣第二號種 本種の穂頭及稈は肥大にして堅固なり粒は赤褐色を呈し芒は二三寸にして穂先にあり品質優等麵麩に適す

うゐんたあぐれいんまうんでん種 本種は宮城縣種に近似するも長く子粒小にして品質善良ならず

尙左に各種に付試作中の特性を示す

種名	莖稈の長短	穂の長短	芒の有無及長短	莖の色澤	穂の色澤	一穂の最多粒數
まつちんすあんばあ種	四尺二寸	三寸二分	小芒	帶黃白色	帶黃白色	三〇
すこつちはいふ種	四尺六寸	三寸五分	同上	同上	同上	三三
しぶれいす めであむ雑種	四尺三寸	二寸	一寸七分	褐色	赤褐色	二七



れつど めでたりにやん種	四尺六寸	二寸	二寸三分	同上	同上	三三
たるきい種	五尺	二寸二分	二寸	同上	同上	二五
おれごん種	四尺八寸	四寸	小芒	帶黃白色	帶黃白色	四四
くろをそん種	四尺八寸	二寸七分	無	同上	褐色	二六
うはべつとちやつぶ種	五尺	二寸五分	一寸七分	褐色	赤褐色	二七
しるばあちやつぶ種	四尺二寸	二寸八分	小芒	帶黃白色	帶黃白色	四〇
うおんたあ ぐれんまんてん種	五尺	四寸八分	同上	同上	同上	五〇
宮城縣第二號種	五尺	四寸五分	同上	同上	同上	四四

(二) 小麦種類試験  
 試験の目的 小麦は大麥に比し腐敗すること少しと雖間々大麥の如く腐敗又は鼠害に罹り皆

無に至ること少しとせず依りて早春播種し其好果を見るや否やを試みんとす

試験の方法 試験區を分て三區とし一區拾歩とし肥料は堆肥一反歩に付二十駄鐘搾粕七貫目の割を以て施肥せり消雪后直に整地し二尺五寸の畦を作り種子は一反歩に付四斗の割合にて灰汁に浸し四月一日條播せり其種名左の如し

- 第一區 かりふるにや種 第二區 ふるつ種
- 第三區 在來種

生育の景況 各區とも四月十三日一齊發芽五月十九日一回中耕し發育頗る良好なりしか其後晴天打續き各區の土壤龜裂を生し且蚜虫の爲め害せられ熟々出穂するのみにして葉莖漸次黄色を呈し結實に至らざりき

結論 前條生育の狀況に於て述べたる如く春時小麦は播種の當時其發育頗る良好なりしも出穂期に至り氣候頗かに温暖にして土壤の乾燥甚たしく出穂甚た少きを見る故に春時小麦は利益なきものゝ如しと雖或は其年の濕燥土質の如何に依り或は相當の收穫を見るやも難計とす要するに農家は消雪後小麦を再播するも其利益を收むること頗る難事なりとす

(三) 畦巾廣狹試験



試験の目的 畦中の廣狹により作物の收量に何程の差異を生ずるやを試みんとするにあり

試験の方法 試験品を二尺五寸區三尺區四尺區とし各區十五歩に區劃し肥料は一反歩堆肥十  
 駄の割合を以て施し播種量は一區一合五勺二區を壹合三區を六勺とし九月二十四日小麥「か  
 りふかるにや」種を點播せり而して除草中耕等は各區同一の取扱をなせり

生育の状況 播種後一週間に一齊發芽し其三十日後之を檢するに各區優劣なし翌春消雪后  
 之を檢するに各區とも半は鼠害に罹りたるを以て凡て試験區を七坪五合とし試験を完了せり  
 其一反歩收量左の如し

區別	收量		一斛の重量	籽の重量	藪籽の重量
	貫數	石數			
二尺五寸區	九、二〇〇 <small>匁</small>	二三二 <small>合</small>	四〇〇 <small>匁</small>	六四、〇〇〇 <small>匁</small>	四、〇〇〇 <small>匁</small>
三尺區	一、二、六〇〇	三六〇	三五〇	六〇、〇〇〇	六、〇〇〇
四尺區	八、四〇〇	二四〇	三五〇	四二、八〇〇	四、〇〇〇

結論 以上の成績に依れば二尺五寸區最少收穫にして最多收量は三尺區なりと雖鼠害の爲め

各區均一を欠くを以て未だ何れか其收量最も多きやを確定するを得ず尤も本件距離の廣狹は  
 其土質に依り大に等差あるを免れざるを以て尙繼續試験をなし確証すへし

薯 藁

種類試験

試験の目的 本試験は外國種中良種と稱するものを在來種に比し其品質收量及含油の多少を  
 試みんとするにあり

試験の方法 大豆收穫后整地の上三區に分ち二尺五寸の畦幅とし種子は一反歩五斛の割合に  
 て九月二十九日各區に條播せり肥料は各區左の分量にて割當たり

- 一反歩 堆肥 二十駄
- 人糞 二十荷
- 二十七年九月二十三日 播種
- 同 十一月十七日 第一回間引
- 二十八年四月三日 第二回間引
- 同 四月十二日 第三回間引



同 四月七日、二十一日、五月八日 中耕除草

生育の状況 在來種は消雪后他の二區に比し草長短く色澤又淡綠色を呈せり四月十八日抽莖し同二十日開花し六月十三日收穫せり本種は他の二種に比し根の少しく上部より支幹を生ずるを以て殆んど畦中を塞ぎ爲に間作物に日光を充分直射せしむること能はざりし

獨乙種 は消雪后在來種に比し其色澤草長少しく優る觀あり四月二十五日抽莖し五月五日開花し六月二十九日收穫せり本種は在來種に比し其根部より分岐するを以て從て畦中の間作物に線光の透過を妨げざりし

米國種 消雪后之を検するに在來種に比し割合に發育良好なり四月二十五日抽莖し五月五日開花し六月二十九日收穫せり本種は獨乙種と其特性を同ふす

左に一反歩收量及搾油の結果を記すへし

第一表

種名	收量		壹升の重量	莖幹の重量
	實數	石量		
在來種	二一、六八二 <small>匁</small>	七三五 <small>合</small>	二九五 <small>匁</small>	四九、五〇〇 <small>匁</small>

獨乙種	二二、四八九	七〇五	三一九	二六、二五〇
米國種	二四、三七五	七五〇	三二五	二四、三三三

第二表

種名	種子六升の重量	搾出油の全量	油粕
在來種	一、七七〇 <small>匁</small>	一三、五 <small>匁</small>	一、一三〇 <small>匁</small>
獨乙種	一、九一四	一四、九	一、一四九
米國種	一、九五〇	一四、〇	一、一四〇

結論 前表收量の部に於て其升量尤も多きは米國種にして在來種之に次ぎ獨乙種は最小收量にして之を昨年試験結果に比すれば概して二斗以上の増収なり而して第二表搾油の分量にありては獨乙種尤も多く米國種之に次ぎ在來種最低なるを以て從來の繁莖を栽培せんより米



國獨乙兩種を栽培し利益あるを示せり然れども外國種は概して在來種に比し收穫期遅遠するを以て栽培者は此點に注意すること必要なりとす

大麻

種類試験

試験の目的 本縣産出の麻は一反歩製麻僅に七貫目内外に過ぎず依りて栃木及佛蘭西種を栽培し在來種に比し其收量を試みんとするにあり

試験の方法 試験を分て三區とし各區十五歩とし肥料は一反歩の堆肥二十駄滓粕十六貫糞灰に十貫の割合を以て施肥し消雪後二回の耕鋤をなし八寸の畦巾となし種子一反歩八升の割合を以て一夜水に浸し畦に入れ發芽を促し條播し上に藎を掩ひ以て鳥害を防きたり其種名左の如し

第一區 佛蘭西種 第二區 栃木種 第三區 在來種

發育の景況 發芽後藎を去り之を檢するに第二第三の二區は稍整一に發生すと雖ども第一區佛蘭西種は發生甚た少く點々散生せり八月十日各區の狀況を檢せしか左の如し

第一區佛蘭西種 全區中十有四本の生長を見るを以て不得止本區試験は單に種子用として其

儘存せしを以て自然比較上の成績を欠く

第二區栃木種 は在來種に比し其草長概して一尺以上長しと雖も蠶螟虫の爲倒伏せしもの尤も多かりき

第三區在來種 は概して草長栃木種より短く蠶螟虫の害割合に少かりき八月十日収獲の際各區の草長及收穫量を檢せしか左表の如し

種名	草長	収量	
		製麻用にすへきもの (乾燥量)	屑麻
佛蘭西種	—	—	—
栃木種	自八尺三寸至九尺	一四八、四〇〇 匁	一一六、〇〇〇 匁
在來種	自五尺六寸至七尺四寸	一二七、〇〇〇	七〇、〇〇〇

右各種に對する一貫目の製麻量を檢定せしか左の如し

同上製麻量の種別



佛蘭西種			
枋木種	二七一	最長きもの 中位のもの 短きもの	六十四匁 四十四匁 百六十三匁
在來種	二二二	同	九十匁 七十二匁 七十匁

結論 以上の成績に依るときは枋木種は在來種に比し一貫目の麻に對し五十九匁の製麻を増加するを以て假に在來種、普通製麻七貫を得るとせば枋木種に於ては七貫四百十三匁に相當する割合なりとす

爪哇薯

種類試験

試験の目的 前年の試験を繼續し猶北海道種の一を加へ其品質収量を試みんとす  
 試験の方法 區を分つて九とし一區五カとし肥料は一反歩に付油滓十五貫目糞灰十八貫目の割を以て施せり播種は前種子を少しく水に浸し之に糞灰を衣とし一粒つゝ一尺を隔て、播種せり其種名左の如し  
 (一) 早熟ぐうせりつち種  
 (二) 雪片種

(三) 細葉腎臟狀種  
 (四) 早熟蕎麥種  
 (五) しかご、まあけつと種  
 (六) 白象種  
 (七) 亞米利加種  
 (八) 早熟びいち、らふぶろん種  
 (九) 北海道紫色種

生育の景況 各區中白象種、早熟蕎麥種、早熟びいちらふぶろん種は其莖幹尤も短く僅か一尺にして其他の各種は大概同一なれども獨り北海道紫色種は其莖四尺以上に生長し莖幹尤も太く風に倒れざりし而して各區中甲虫の害に罹りたるものは早熟蕎麥種亞米利加種、白象種、北海道紫色種にして其他は概して異状なかりき其一反歩収量品質及澱粉含有の多少は左の如し

種名	收穫期	收量			
		石數	貫數	一坪の重量	一貫目に對する澱粉量
早熟グイドリッチ種	八月四日	一一、六九〇	八三五、〇〇二	六五八	八一
雪片種	同上	一一、七〇〇	五九四、三〇六	五〇八	八七
細葉腎臟狀種	同上	一一、九三〇	六四六、五〇〇	五〇〇	九三







早熟びいち、らふけふろん種 長楕圓にして皮は黄褐色を帯ひ肉質頗ふる緻密澱粉尤も多く食用とし頗る美なりとす一ヶの重量四十一匁に至る

北海道紫色種 花は紫色にして薯の形状不整凹凸を呈し紫色なり芽は頗る多く肉は緻密にして液汁少く其色にして晩熟なり一ヶの重量二十五匁に至る

細葉腎臟狀種 花は薄紫色にして薯形長く腎臟狀をなし皮は淡黄色にして薄く肉は黄色なり味美にして大塊一ヶの重量二十五匁に至る

早熟蕎麥種 花は白色にして収獲尤も早く薯形卵圓形にして皮薄く蕎麥色を帯び肉は緻密ならざるも味佳なり本種は本縣中尤も多く栽培する種類にして所謂二度芋と稱するもの是れなり一ヶの重量四十匁に至る

◎ 蠶 業

○本年蠶業概況 本年の蠶業は管内を通じて掃立以來上簇まで氣候頗る滴順十分の收繭を見るに至れりこれを昨年に比せば飼養戸數に七百六十四戸收繭石數に三千百五十六石餘を増加せり其他左表に詳かなり

春 蠶

一斤平均掃立枚數	蠶種一枚に	掃立一斤に對
枚一分一厘一毛	付収繭割合	する収繭石數
三六三	石斗舛合	石斗舛合
	九〇一	二二四三



6 7 8 9 40 11 2 3 4 5 6 7 8 9 5

二十八年 養蠶

(春蠶)

郡市名	養蠶戶數	掃立枚數	繭石數	一戸平均掃立枚數	繭種一斗割合	掃立一戸に對する繭石數
計	1,288,100	1,468,200	1,188,500	114	7.9	9.1
秋田市	338,000	378,000	318,000	112	7.9	9.1
雄勝郡	528,000	588,000	488,000	111	7.9	9.1
平鹿郡	288,000	318,000	268,000	114	7.9	9.1
仙北郡	438,000	488,000	418,000	114	7.9	9.1
由利郡	538,000	588,000	518,000	111	7.9	9.1
河邊郡	188,000	218,000	188,000	116	7.9	9.1
山本郡	238,000	268,000	238,000	117	7.9	9.1
鹿角郡	338,000	368,000	318,000	112	7.9	9.1
北秋田郡	438,000	488,000	418,000	114	7.9	9.1
南秋田郡	538,000	588,000	518,000	111	7.9	9.1







○奥羽六縣實業大會景況 九月十一日より十三日迄三日間山形縣縣會議事堂に於て奥羽六縣實業大會左の日割及順序にて開會せられ本縣より出席せしものは左の如し

本縣技師	熊野義輔	南秋田郡	石川理紀之助
同	川村永之助	同	伊藤福治
北秋田郡	長谷川千藏	河邊郡	森川源三郎
同	松本喜久治	同	八嶋孫太郎
仙北郡	舟尾慶治	同	梁田理一郎
雄勝郡	高橋理造	同	高橋利兵衛
同	香澤徳太郎	同	石川爲治
由利郡	三浦義雄		

又該會農事會協議案實業協議案五二會協議案及該決議等左記之通にて諸系會協議會及決議は次回之報文に記すへし

◎ 奥羽六縣實業大會日割及順序

◎ 第一日

九月十一日 午前正八時各業者一同山形縣會議事堂に參集の事

第一鐘 開會式

一大會發起人總代開會の辭

一山形縣知事木下周一君祝辭

一山形市長祝辭

一有志者祝辭又は演說

第二鐘 休憩

一前田正名君演說

第三鐘 散會

◎ 第二日

九月十二日 午前正八時一同山形縣會議事堂に參集の事

第一鐘 協議會

各業者毎に協議會又は交渉會を開き委員を設く

第二鐘 散會

◎ 第三日

九月十三日 午前正八時一同山形縣會議事堂に參集の事



第一鐘 決議會

前日各業者協議會并に交渉會を開きたる結果を決議す

第二鐘

一 前田正名君式辭

一 有志者祝詞又は演説

一天皇陛下皇后陛下の高歳を唱ふ

第三鐘 散會

午後三時 園遊會

千歳公園に於て園遊會

注意 毎日時間は尤も厳正に確守ありたき事

奥羽六縣農事大會協議案

一 市町村郡府縣農會法の發布を第九議會へ請願し政府に建議するの件

原案の通

二 農業教育普及の方法

尋常師範學校に農事專修科を設け農事教員を養成すること

三 明治二十九年に開くべき聯合大會場所及時期確定の件

宮城縣に九月二十日開設

四 聯合六縣代表者出席者の數を定むるの件

一縣貳名とし其他隨意出席すること

五 次會大會に於る問題探定委員を定むるの件

主催縣地に於て凡ての準備をなし問題を蒐集取捨すること

六 每大會には豫め農商務大臣農事諸會中央本部會長の臨席を稟請の件

原案の通

七 全國農事諸會中央本部と氣脉流通の件

原案の通

實業協議案

一 各縣に於ける特有物産の振興發達を圖るべき爲め縣立實業學校の設立を其筋へ申請するの件



特原案の通

- 一 各縣の奥羽六縣五二會大會決議を以て、各縣の立派な製産物ありしを以て、其評へ申附するの  
奥羽六縣下に於て五二品に關する製産物ある地方には五二會を組織するの件
  - 二 山形縣を除く外五縣は參會員歸縣の上夫々組合を勸誘し山形縣は米澤に織物本部を置き  
各縣内各地の織物業者を統轄すること
  - 三 各地に於て五二會品評會を開くの件
  - 四 追次開設を謀ること
  - 五 明治二十九年に開くべき聯合大會場所及期限確定の件
  - 六 宮城縣に於て九月二十日より開設の件
  - 七 次回大會に於る問題選定委員を定むるの件
  - 八 中央大會に付聯合六縣代表者出席者の數を定むるの件
  - 九 右二件は不日米澤市に於て五二會發會式を擧たる後に於て定むること
  - 十 毎大會には豫め農商務大臣及五二會監督の臨席を稟請の件
- 原案の通

明治二十八年九月秋田氣象

空氣之溫度		攝氏		地中溫度		攝氏		最高		最低	
平均	最高極度	最低極度	示度	示度	地下三メートル	地下一、地下〇、 地下五メートル	地下五メートル	日	日	地	温
一九、九	三二、八	八日	六、七	十四日	一三、六	二二、一	二二、一	三三、七	一三、〇		
風向及速度 (速度ハ一秒時間メートル)											
平均風向	最多風向	平均速度	行	一ヶ月	中	最強	速度	時			
南八十九度 六分東	東	(軟風) 三、〇	一七、四	東南東	八日午前 六時三十分						
雨量 (耗)											
一ヶ月總量	同上	一坪面積ニ	一日中ノ	最	同上	一坪面積ニ	同上	日			
改算	多量	改算	改算	改算	改算	改算	改算	改算			
四八、七	八斗九升一合	八、〇	一斗四升六合	一日	〇	二〇	一〇	一三	三		
天氣日數											
快晴 晴 曇 象天雨 天暴風											



明治二十九年三月九日印刷  
明治二十九年三月九日發行

### 秋田縣內務部第五課

印刷者

松本讓

秋田市保戸野北鐵砲町十二番地

印刷所

秋田株式會社

秋田市茶町菊ノ丁十八番地



終

昭和二十五年三月五日  
四月二十三日

田嶋 洋

田嶋 洋

林田 郷内 林田 郷内

林 本 郷

林田 郷内 會 館

林田 市 林田 市

林田 市 林田 市